



有形文化財（工芸品）

4 4. ちゅうどうだいにちによらいかけぼとけ 鑄銅大日如来懸仏 1面

■指定年月日 平成5年3月18日(1993)

■寸法 径15.0cm 像高6.8cm

■所在地 若山町上正力7-17-2

■所有者 伊勢神社

鑄銅製の鏡板に大日如来を鑄出した懸仏である。像のまわりには線状の二重円光がとりまいている。鏡板の両肩に孔がうがたれているが、吊り下げのための鑢座かんざが取り付けられてあったものであろう。

鏡板の裏面には次のような銘文が鑄出されている。

天文十四年四月日

若宮大権現

現世安穩 敬白

後生善処

囀宮権現

この懸仏は、天文14年(1545)に、奉納者が現世の安穩と後生の幸福を願って奉納したものである

事がわかる。若宮大権現は、明治まで上正力村にあった若宮神社を指すもので、明治40年に伊勢神社に合祀された社であった。

この懸仏は、その技法から現穴水町中居の鑄物師によって鑄造されたと推定されている。近世以降、能登では中居製の懸仏が盛行したが、その先駆をなすといわれるものである。